



一般社団法人

日本中華總商會

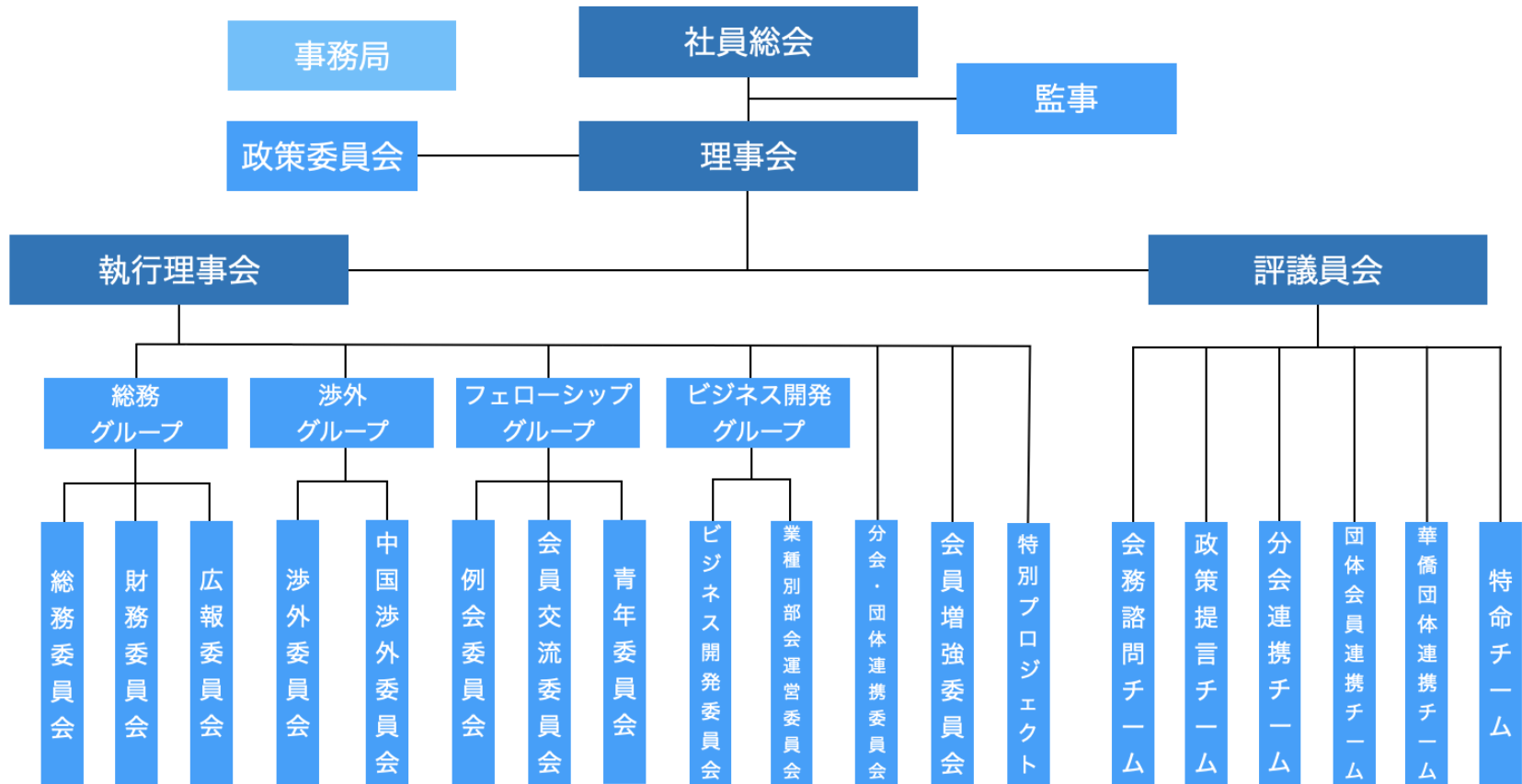
Chinese Chamber of Commerce in Japan

2024年事業計画及び予算計画

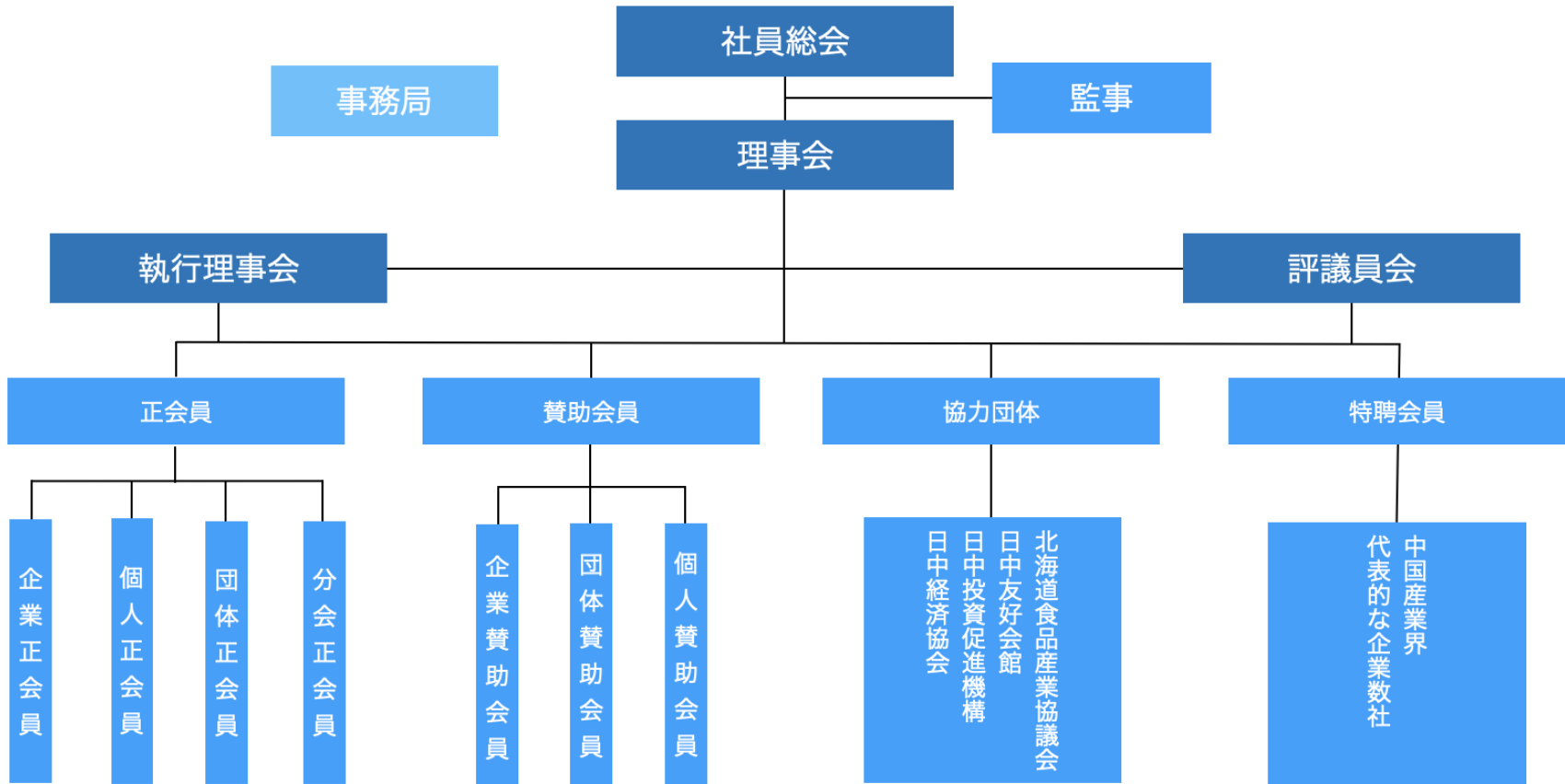
概要

- ・ 2024年、日本中華總商會は組織再編により効率的な事業運営と革新的な展開を目指します。事務局を拡充し、質の高い会員サービスと事業支援を提供します。25周年を迎えるにあたり、マレーシアでの世界華商大会参加を含む記念行事でブランドを強化し、国際連携を促進します。
- ・ フェロウシップグループは、活動を通じて、組織内のメンバー間の結束と協力を促進します。例会委員会では、知識共有とネットワーキングを促す講演やセミナーを企画し、会員増強と価値向上に努めます。会員交流委員会は、相互理解を深める交流活動を策定し、青年委員会は次世代リーダーの育成に尽力します。
- ・ ビジネス開発グループは新規事業の創出を支援し、渉外グループは国際的な華僑・華人ネットワークの強化を目指します。
- ・ 分会・団体連携委員会は、地方分会と団体の交流を深め、会員増強委員会は100社の会員拡大を目指します。
- ・ 総務グループでは、情報発信を担う広報委員会、透明性を確保する財務委員会、そして各委員を支える総務委員会の活動も重要です。
- ・ 2023年よりイベントは減少しますが、質に焦点を当てた実施計画です。今年は事業運営の改善と活力ある取り組みで、ダイナミックな一年を目指します。

2024年新組織図(案)



會員種別（構成）



1. 新たな組織体制(法定理事会・執行理事会・評議員会・グループ等)

・2024年は、執行理事会の下で委員会をグループ化し、常務副会長がグループ長として委員会の運営を指導する体制を取ります。

・運営委員会はフェローシップグループへと名称を変更し、部会を委員会へ格上げして、例会委員会、会員交流委員会、青年委員会を新たに設置します。さらに、業種別部会運営委員会を新設し、会員ビジネスの連携と協働を推進します。

・評議員会は、評議員を中心に専門チームを結成し、理事会への諮問・提言機能を強化し、在日華僑華人団体との連携を進めるため、2024年から本格的な活動を開始します。

・政策委員会は理事会の直轄となり、外部の有識者を交えた多角的な議論を通じて、組織の長期ビジョンや戦略的目標の検討、重要な政策や方針の策定に努めます。

事務局は、組織の成長に応じてさらに強化され、理事会及び委員会の事業運営サポートと会員サービスの質の向上に注力します。

・また、2024年も法定理事会、評議員会はそれぞれ3ヶ月に1回、執行理事会は毎月開催する予定です。今年も軽井沢での役員会議を開催する計画です。

法定理事会	4回
執行理事会	12回
評議員会	4回
総会	1回

2. 会全体の事業

・2024年は、日本中華總商會創立25周年にあたり、迎春会を始め、9月の第17回マレーシア世界華商大会への参加、CCCJWEEK関連イベントや25周年記念行事を企画します。

迎春会（1月）	25周年記念行事（予定）
マレーシア世界華商大会（9月）	役員・会員忘年会（予定）
CCCJ WEEK（賞月会、ビジネスフォーラム、ビジネスコンテストなど）	

3. 対外交流事業(渉外グループ：徐志敏常務副会長)

・本年、第17回マレーシア世界華商大会に参加し、海外の中華總商会との交流を深めることを目指します。さらに、日本の経済団体との連携を強化し、全面的な協力体制の構築を進めています。また、2024年には、新型コロナウイルスの影響で実施できていなかった中国訪問ミッションを計画しています。

・ 渉外委員会(予定)

香港中華總商会主要幹部との交流会

シンガポール中華總商会との交流会

タイ中華總商会との交流会

・ 中国委員会(予定)

中国チベット訪問

中国北京訪問

4. 会員サービス事業（フェロシップグループ：船津康次常務副会長）

- ・フェロシップとは、人々が友情や協力の精神を共有し、活動を通じて、組織内のメンバー間の結束と協力を促進することです。
- ・2024年においては、会員間の交流を促進し、会員の事業発展とビジネスマッチングに貢献することを目指し、3つの委員会を指導し、活動を展開します。（委員会に下では、必要に応じて部会を設ける）
- ・会員交流委員会
 - ・会員間の相互理解と交流を促進し、共存共栄を図るために、様々な会員向けの交流活動を定期的に計画、実施します。

部会	活動内容	回数（予定）
交流部会	昼の交流会3回、夜の交流会3回	6回
学び部会	企業視察	3回
レクレーション部会（文化）	ジャンルに限らず多種多様な活動を企画	3回
レクレーション部会（スポーツ）	ゴルフ・登山・相撲・野球観戦など	3回
	合計	15回

例会委員会

・例会委員会は、講演やトークセッションで最新業界トレンドを啓発し、マッチング会でビジネス連携を促進。ブランディングと会員増を図り、専門家が具体的問題を解決支援。イベントで地域経済とのネットワークを強化し、基幹事業として、会員の成長と組織価値向上を目指す。

- ・年6～10回程度の大型例会の企画、開催
- ・狙い：CCCJのブランディング、会員増強、ネットワーキング
- ・1回につき参加者300名規模(予定)

青年委員会

・青年委員会は、若手の会員のエンゲージメントと起業家精神の育成、ネットワーキングの促進、組織の将来的なリーダーシップを確保するための活動に焦点を当てています。これらの活動により、青年委員会は組織内での若手の存在感を高め、将来の組織運営に必要な人材を育成するための基盤を築きます。

- ・次世代経営塾3期生の運営、CCCJ青商朝食会
- ・例会活動支援、ビジネスマッチングイベント
- ・CCCJ青商ボランティア活動、ビジネスコンテスト
- ・日本の青年団体との交流会

5. ビジネス創出事業(ビジネス開発グループ:段卓常務副会長)

ビジネス開発委員会

・ 会員事業の再構築とビジネスモデル転換への支援、さらには起業や新事業の立ち上げを支援することを目的に活動します。関心を集めるビジネスサロンを開催し、その回数を絞って質の高い内容を提供します。業種別分科会を充実させ、軌道に乗せることで、海外との交流をさらに活性化します。

業種別部会運営委員会

ビジネスサロン	3回
分科会活動	6回
ビジネスコンテスト	1回
海外の企業・団体との交流	2回

6. 分会・団体連携委員会（古川鵬程副会長）

・地方分会の会員企業と総商会の会員企業間の交流を促進し、相互理解と信頼を深めるため「地方経済発展と華商の未来」をテーマにした対話型イベントの開催、ならびに日本中華總商会分会と連携した「ゴルフ交流会 in 新潟」の開催を計画しています。

7. 会員増強委員会（譚玉峰副会長）

・会員の拡大と活性化を目指し、関心を持つ企業に対して本会のPR活動を強化し、理解を深めていただくための取り組みを進めます。

2024年の目標は、新規に100社の会員企業を迎え入れることです。これには役員や会員の紹介が含まれます。

8. 総務グループ（尚捷常務副会長）

総務委員会

総務委員会と事務局の連携を改善し、一部の権限を事務局に委譲し、事務局員の成長に繋げていきます。さらに、人事労務管理の改善と効率化を目指し、適切なツールを導入します。また、会計システムの導入より会計業務の効率性の向上を目指します。自薦および他薦のプロセスを整備し、適切な委員候補者の選定をサポートし、委員会会議運営の定着と予実管理のサポートをします。さらに、会員サービス質の向上、特に賛助会員と新入会員のサポートを強化します。

財務委員会

会の財務に関わるプロセスの整備、財務レポートや計画の作成及び財務監査体制の構築を行います。役員、監事に対して、定期的な財務報告を行い、財務透明性を保ちます。

広報委員会

- ・会の事業・活動等についての外部への情報発信や、会員向け情報を提供します。

25周年記念関連イベントの宣伝、会員インタビューの実施、YouTubeチャンネルの運営を行います。

9. マレーシアPJ委員会（松坂喜一常務副会長）

- ・ 2024年は、マレーシア華商大会が開催され、CCCJ NIGHTマレーシアバージョン（CCCJの25周年記念も兼ねて）の開催も予定されています。
 渉外委員会、青年委員会、および特別プロジェクトチームと緊密に連携し、これらのイベントを成功させることを目標としています。

10. 特別PJ委員会

- ・ 世界華商大会の誘致PJ、CCCJ WEEK(日本華商大会含む)関連事業や設立25周年記念事業など、必要に応じて特別プロジェクト委員会を立ち上げ、各委員会の中心メンバーを集約し、事業運営の成功を目指します。

終わりに

・以上、ご報告した通り、日本中華總商会は、今後は更なる事業や活動を通じて、日本と中国、アジア、そして全世界の華僑華人組織との間に強固なネットワークを構築し、会員企業と地域経済の発展、日本社会の更なるグローバル化に寄与し、持続可能な未来を共に創造する役割を果たします。